

【実践報告】

地域に根ざした課外活動を通じた

キャリア形成と学び合い

教育と企業が向き合い，社会人基礎力を培う

白村 直也¹⁾，横田 康成¹⁾，吉田 敏¹⁾，正村 隆弘²⁾

¹⁾ 岐阜大学教育推進・学生支援機構

²⁾ 岐阜大学学務部学生支援課

要旨

2019年9月に岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門主催で「輝け！キャリアコン2019☆岐大」というイベントを企画した。開催の狙いは、普段の課外活動の成果を発表し合い、もって学生一人一人の「社会人基礎力」（岐阜大学「基盤的能力」（「前に踏み出す力」，「考える力」，そして「皆で働く力」）の醸成を促す点にあった。岐阜県内の教育機関から参加を募り，岐阜大学を含む計6校から7チームが参加，各チームは岐阜県という地域に根ざした課外活動の成果を発表した。質疑応答と学生交流会を経て，イベントは盛況の内に無事終了した。本実践報告はこのイベントの企画から開催，そしてその振り返りを記すものである。

キーワード：課外活動，基盤的能力，社会人基礎力，学び合い，キャリア形成

1. はじめに

日本で「キャリア教育」という文言が公的に登場し，その必要性が提唱されたのは，1999年12月（中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について」）のことであった。その後高等教育については，2009年に質保証と学生支援充実の観点から職業指導（キャリアガイダンス）の実施を文部科学省が提言し，キャリアガイダンスが大学設置基準に位置付けられるようになった。2013年の時点ではキャリア教育は担当の教職員のみが行う取り組みであると認識され，全学的なキャリア教育の位置付けや，教育プログラムの整備，運営組織・体制の整備，教職員への意識啓発等が問題点として取り上げられることもあった¹⁾が，約10年が経過した今では，それら問題点も各大学の取り組みの成果もあつてか

克服されつつあり、キャリア教育をめぐる各大学の取り組みは多様化しつつある。

一般に「キャリア教育」というのは、この教育を通じて「社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア²⁾ 発達を促す教育³⁾」(文部科学省)のことである。「現在の厳しい雇用情勢や多様化に伴う卒業・修了後の就職支援の必要性を踏まえ、学生等がそれぞれの専門分野の知識・技能と共に、職業を通じて社会とどのように関わっていくのか、在学中に明確な課題意識と具体的な目標を持ち、それを実現するための能力を身に付けられるようにすることが課題となっている⁴⁾」。

岐阜大学では教育課程の授業としては全学共通教育科目の中でこの要請に応えるべく、「キャリア形成科目」を設置し多彩な授業を用意している。もちろん、教育課程の授業に並行して教育課程以外の取り組みも、学生のキャリア形成にとっては非常に重要な役割を担う。授業科目で実社会における適用を学ぶ初年次教育、グループワーク・ゼミ形式の授業内容、調査・実習・発表重視の授業、課題対応型学習、インターンシップ等を活用するだけでなく、教育課程以外の活動を効果的に組み合わせることで学生のキャリア形成に重要である。そのため、教育課程における授業の実施に並行して学生の多様な自主活動を支援し、各個人の成長を促すことも大学の「キャリア教育」には広く求められているといえる。

2019年9月に岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門が開催した「輝け！キャリアコン 2019☆岐大」というイベントは、教育機関の壁を越え学生同士の自主活動成果を発表し合い、評価を受け、学び合うことで、学生のキャリア形成を加速化させる「場」を提供することを目的に開催したものである。本稿はその企画や運営、そして実施に至る経緯を書き留めるものである。

2. 岐阜大学の「基盤的能力」と「社会人基礎力」

岐阜大学は、社会で生涯にわたって高度な専門職業人として活躍するため、学生に身に付けて欲しい力(「基盤的能力」として「考える力(総合的判断力)」「伝える力(コミュニケーション力)」,そして「進める力(自律的行動力)」を掲げている。この力の習得はキャリア教育にのみ求められているわけではないが、岐阜大学のキャリア教育のあり方を検討する上で大きな指標となっている。

一方、経済産業省が2006年に提唱した「社会人基礎力」(図1)は「前に踏み出す力」,「考え抜く力」,「チームで働く力」の3つの能力(12の能力要素)から構成されており、「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」を指す。「人生100年時代」を見据えて今後この力は社会で必要とされることもあり、学生のキャリア教育を考える上での重要なキーワードとして、教育業界はもとより社会からも非常に注目されている。

この「社会人基礎力」で示される12の要素能力のうち、ストレスコントロール力や柔軟性などの要素は岐阜大学の「基盤的能力」には直接には含まれていないものの、「基盤的能

力」中の論理的思考力は「社会人基礎力」でいう「考え抜く力」や「計算力」に重なる部分もある。また、「社会人基礎力」が「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力」としている点で、岐阜大学の「基盤的能力」に足並みをそろえる部分も多い。

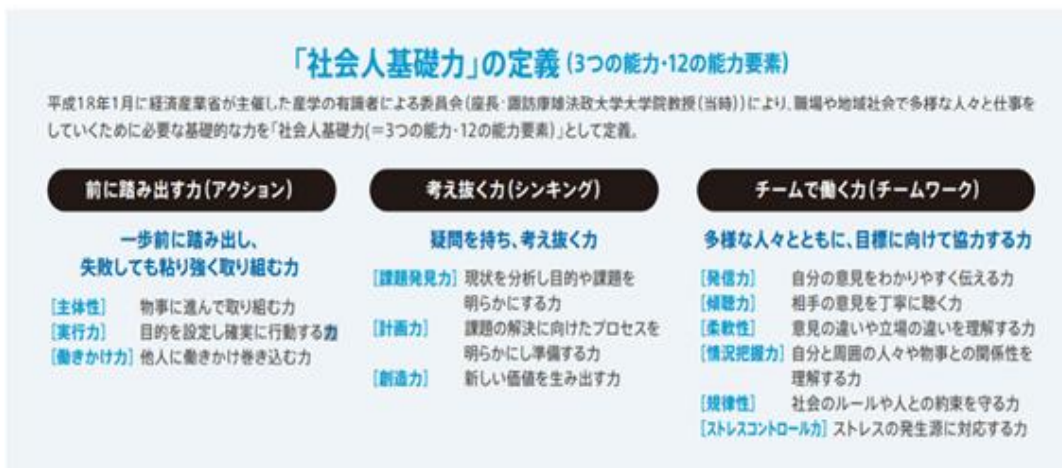


図1. 「社会人基礎力」の定義

(出典：一般社団法人 社会人基礎力協議会ホームページ)

3. 一般社団法人社会人基礎力協議会主催

「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」の出場経験を踏まえて

一般社団法人社会人基礎力協議会主催「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」(共催：経済産業省、以下「グランプリ」とは年一度開催され、地区予選大会(岐阜大学は中部地区に属する)と全国大会から構成されている。大学ごとにチームを組み、地区予選大会を上位で勝ち抜いた大学が全国大会に駒を進める。グランプリで問われるのは、各大学チームが自由に設定した課題の解決に向け、学生の「社会人基礎力」がどのように育成されたか、という点である。

筆頭著者である白村は、岐阜大学活性化経費(教育)を受けて平成29年(於：名古屋産業大学、地区大会準優勝受賞)と平成30年(於：椋山女学園大学、地区大会奨励賞受賞)の2度にわたり、当グランプリに出場した。このグランプリ出場の目的は、主に3点あった。

①学生の課外活動を通じて育まれる「基盤的能力」やその多くが重なる「社会人基礎力」の成果がグランプリを通じて評価されることで、学生の大学での学びやその後の将来にポジティブな影響を与える。②グランプリへの出場を重ね、その動向を探ることで国や「社会」が求める「社会人基礎力」の動向にキャッチアップすることができる。そして③学生の課外

活動の成果を広く社会に還元することで、岐阜大学の取り組みに関わる社会的な認知が高まる。結果として、岐阜大学のprestigeの上昇、他大学や関連組織との協同を模索することができる、の3点である。

実際に参加してみて気付いた点や学ぶべき点は数多くあったが、何より岐阜県の教育機関からの参加がないことに一抹の不安を覚えた。教育機関数の関係もあり、一概に他県と比べることはできない。だが、岐阜県内の各教育機関は学生に身に付けて欲しい力をそれぞれ掲げ、日々教育活動に取り組んでおり、また目を見張る成果を出している機関も少なくない。「人生100年時代の社会人基礎力育成グランプリ」ほどの規模ではないものの、岐阜県で学び活動する学生が日々の取り組みを披露し合い、学び合う「場」があっても良いのではないかという着想が生まれた。

4. 輝け！キャリアコン2019☆岐大の企画から開催

2019年9月8日（日）、岐阜大学サテライトキャンパス（岐阜県岐阜市）で「輝け！キャリアコン2019☆岐大」（主催：岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門、後援：岐阜県、岐阜県学生就職連絡協議会、以下「キャリアコン」と記す）を開催した。これは、若干の違いがあるものの、毎年開催される「社会人基礎力育成グランプリ」の岐阜県版という位置付けであった。

「キャリアコン」開催の背景

「キャリアコン」開催の背景には、2つの大きな理由があった。1つめは「グランプリ」は、その地区大会に岐阜県からの参加がほとんどなく、岐阜県内ではあまり広く知られていないため（9月開催の「キャリアコン」をステップに12月開催の「グランプリ」中部地区大会に参加を促す）、そして2つめに大学をはじめとする高等教育機関、そして日本語学校や障害者就労移行支援事業所など、今後就労を見据える学生の社会貢献活動を披露し学び合い、同時に社会人基礎力を育む「場」を設けたいと考えた点にあった。

岐阜県という地域の特性に着目した学生の活動は非常に多く、その活動を通じた学生の成長は目覚ましい。「キャリアコン」はそうした活動を「社会人基礎力」という物差しで客観的に評価しようとするものであり、今年度岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門が初めて企画し、県内各教育機関（計60校）に参加を呼びかけた。

社会人基礎力育成グランプリの運営を参考に企画

「キャリアコン」の募集要項は「グランプリ」の要項を参考に作成した。発表時間や形式は「グランプリ」を踏襲しポスターも作成（図2）、2019年5月から参加を募った。6月末に参加を締め切り、6校8チーム（大学3校4チーム、専門学校3校4チーム）の参加を受け付けた。8月末に発表データ（PPT）の提出を受けると同時に審査員の選定に入った。



図 2. 輝け！キャリアコン 2019☆岐大ポスター

最終的に横田康成教授（岐阜大学教育推進・学生支援機構キャリア支援部門）を筆頭に、マイナビ株式会社や一般社団法人岐阜県経営者協会、そして NPO 法人 G-NET より 1 名ずつ計 4 名に依頼をした。

ちなみに当日は参加者が 55 名であった。内訳は、発表者 44 名（学校関係者を含む：学生 24 名，教職員 14 名，企業 6 名）にくわえ，観覧者：11 名（全て参加校関係者）である。各発表グループ名と発表テーマは表 1 の通りであり，発表内容は岐阜県という地域に根ざしたものが多く，非常に多彩で審査員からの質疑応答にも熱が入った（図 3）。

表 1. 発表チームとテーマ一覧（当日の発表順）

発表チーム	発表テーマ
1. 日本総合ビジネス専門学校・大垣 4Core	介護施設での入居者の食事を計測・可視化システム
2. 大原法律公務員専門学校 岐阜校 公務員科 チーム	児童福祉施設のボランティアについて
3. アンファッションカレッジ 高等課程 ファッション総合科 校外活動グループ	ファッションの力で 地域貢献活動
4. 岐阜大学 学生ボラネット・ボンド	フェアトレードを通じた地域貢献活動
5. 岐阜県立看護大学 ボランティアサークル FLAP	サークル活動を伝承していくための自主的活動
6. 日本総合ビジネス専門学校・大垣 に組	揖斐高原のキャンプ場利用者が楽しめる サービスの考案
7. 岐阜聖徳学園大学 ACT (アクト)	岐阜駅周辺の賑わい創出を目的とした 学生イベントの開催



図 3. 発表の様子



図 4. 発表グループによる成果物の展示

全チームの発表が終了し、その後審査会に移った。審査会が開かれている間、会場は学生交流会として各チームから1名の代表者が登壇し、約30分の時間をとり今までの活動を振り返った(図5)。主催者側からは3つの質問が投げかけられた(図6)。

1. グループで活動してみて思ったこと、2. 今回キャリアコンに参加して得た率直な感想、そして3. 他のグループの取り組み・発表をみて思ったこと、である。



図 5. 全グループ発表後の学生交流会①

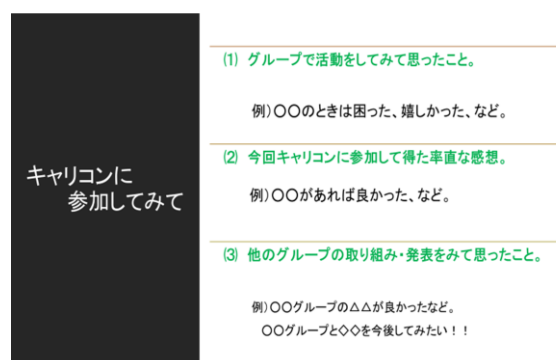


図 6. 全グループ発表後の学生交流会②

各代表者からは率直な意見が出され、会場は非常に和やかな雰囲気のもと今までの活動の振り返りが行われた。その内容は会終了後に回収されたアンケート結果にも反映されているように思う。

その後審査会の終了に伴い、結果発表と表彰式に進んだ。最優秀賞、優秀賞、審査員特別賞、そして奨励賞の授与を執り行い、会は無事終了。その模様は2019年9月10日付け岐阜新聞(第21面)、2019年9月17日付け中日新聞に記事掲載された(第8面:図7)。



図 7. 2019年9月17日付け中日新聞（第8面）

5. アンケート結果から振り返る

今回「キャリアコン」を開催するにあたって、アンケートを用意した。来場者には一人1枚入場時に渡し、会の終了後に回収した。その結果を記すとともに会を振り返りたい。アンケートは参加者55名中35名から回答を受けた（発表者（学校関係者を含む）24名、観覧者11名）。発表者の回答（表2）と観覧者の回答（表3）を別に表にまとめた。

表 2. 発表者（学校関係者を含む）の回答内容

質問事項	評 価				
	良い /思う	やや良い /やや思う	普通 /分から ない	やや悪い /やや思わ ない	悪い /思わ ない

地域に根ざした課外活動を通じたキャリア形成と学び合い

1. 本イベントの趣旨は分かりやすかったですか？	7	8	4	2	3
2. 本イベントの参加申し込み方法・要項の見やすさはいかがでしたか？	10	5	9	0	0
3. 本イベントの開催時期（9月）はいかがですか？	13	5	4	2	0
4. 事務局の対応はいかがでしたか？	12	4	7	1	0
5. 開催会場の設備はいかがでしたか？	13	4	7	0	0
6. 司会進行、その他イベントの進め方についてはいかがでしたか？	12	4	7	1	0
7. 来年度以降も発表（参加）したいと思いますか？	4	12	8	0	0
8. 知り合いに発表（参加）を勧めたいと思いますか？	5	8	11	0	0

もっとも回答者が多い箇所は色濃く、2番目に多い箇所は薄く色つけをした。こうして見てみると、問1, 3, 7, 8は回答の分布がまとまっているため、大方の発表者の感想として受け止めることができる。次回以降も発表（参加）したい、また周囲に発表（参加）を勧めたいと思えるような、魅力ある会作りを目指していきたい。問2, 4～6については回答に大きなばらつきが見受けられるため、自由記述の箇所をもとに丁寧な振り返りの機会を別途持ちたいと思う。

表 3. 観覧者の回答内容

質問事項	評 価				
	良い / 思う	やや良い / やや思う	普通 / 分からない	やや悪い / やや思わない	悪い / 思わない
1. 本イベントの趣旨は分かりやすかったですか？	2	6	1	1	1
2. 本イベントの開催時期（9月）・曜日はいかがですか？	3	3	5	0	0
3. 開催会場の設備はいかがでしたか？ *	3	4	3	0	0
4. 司会進行、その他イベントの進め方についてはいかがでしたか？	2	5	3	1	0
5. 各学生グループの発表は分かりやすかったですか？ **	2	2	2	3	0
6. 発表時間（14分）はちょうど良かったですか？	2	4	2	2	1
7. 来年度以降も観覧したいと思いますか？	2	3	5	1	0
8. 知り合いに発表、観覧を勧めたいと思いますか？	2	3	4	1	1

* 「3. 開催会場の設備はいかがでしたか？」の欄は無記入1名

** 「5. 各学生グループの発表は分かりやすかったですか？」の欄は無記入2名

（「グループによって差があるため」）

観覧者の回答については、回答の分布がおおよそ固まっている。「やや良い/やや思う」「普通/分からない」に回答が集中しているのが見て取れる。問 5, 6 は発表に関するものであり、各グループの発表が分かりやすいかどうかは、会の趣旨が発表者に確実に伝わっていなかった可能性もあるため、次回開催する際には注意したいと思う。

さて、以上を踏まえて全体を振り返ってみると反省すべき点が大きくは2点ある。1つは岐阜県内の企業関係者にもっと声がけして観覧客を募り学生との交流を促すことであり、もう1つは学生交流のための時間自体をもっと長めに設けるべきであった。また、今回は岐阜大学主催で開催したが、その背景には岐阜大学にとっての3点のメリットも想定していた。

1. **【地域への貢献】** こうしたイベントを開催することで岐阜大学が企業、団体、そして学生（岐阜大学に限定しない）の結節点となる。
2. **【県内の学生と企業の動向把握】** 岐阜大学に限らず、学生（当該世代）がどのようなことに興味を持っており、また社会（企業など）は学生に何を期待しているのかを把握することができる。
3. **【社会の変化に即応できる】** 2を踏まえ、社会の変化とニーズを汲むことで、岐阜大学のキャリア教育にいち早く反映させることができる、である。

この3つのメリットは上記2点の反省点と深く結びついている。次回開催時にはこの経験を活かしていきたいと考えている。岐阜県でのこうした取り組みが他県に波及し、社会人基礎力にさらに注意を向ける機関が増えることを願ってやまない。

6. おわりに

本稿冒頭に記したように、「キャリアコン」開催の当初の目的は「教育機関の壁を越え学生同士の自主活動成果を発表し合い、評価を受け、学び合うことで学生のキャリア形成を加速化させる」ことにあった。活動の成果を発表し合い、評価を受けることは無事に執り行うことができたが、会を開催することが発表者のキャリア形成にどのような影響を与えたのかは即断できるものではないため、発表者と定期的にコンタクトを取ることでその後の「成長」を見守っていきたい。また、今回の開催でできた繋がりを維持し、学生が主体となる会に移行できればと考えている。

【注】

- 1) 特定非営利活動法人キャリア・コンサルティング協議会「大学等におけるキャリア教育実践講習」（厚生労働省委託事業平成25年度キャリア教育専門人材養成事業）

93 頁，厚生労働省のホームページにて閲覧可能

[<https://www.mhlw.go.jp/>] (2020 年 8 月 30 日閲覧確認)。

- 2) ここでいうキャリアとは「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね (文部科学省「キャリア教育：キャリア教育の推進」1 頁)」を指す。
- 3) 文部科学省「キャリア教育：キャリア教育の推進」1 頁。
- 4) 特定非営利活動法人キャリア・コンサルティング協議会「大学等におけるキャリア教育実践講習」(厚生労働省委託事業平成 25 年度キャリア教育専門人材養成事業) 93 頁。

【参考文献】

1. 一般社団法人 社会人基礎力協議会「社会人基礎力協議会 News」第 2 号，2019 年 11 月 11 日発行，3 頁。協議会のホームページで閲覧可能
[http://biz100.org/files/2019_NewsLetter_No2.pdf] (2020 年 4 月 22 日閲覧確認)。
2. 岐阜新聞 (朝刊) 2019 年 9 月 10 日付け，第 21 面。
3. 中日新聞 (朝刊) 2019 年 9 月 17 日付け，第 8 面。
4. 特定非営利活動法人キャリア・コンサルティング協議会「大学等におけるキャリア教育実践講習」(厚生労働省委託事業平成 25 年度キャリア教育専門人材養成事業) 厚生労働省のホームページにて閲覧可能
[<https://www.mhlw.go.jp/>] (2020 年 8 月 30 日閲覧確認)。
5. 文部科学省「キャリア教育：キャリア教育の推進」
[https://www.mext.go.jp/apollon/mod/pdf/mext_propulsion_20180223.pdf]
(2020 年 8 月 30 日閲覧確認)。

【謝辞】

「キャリアコン」開催にご協力を頂きました皆様，とりわけ後援を頂きました岐阜県，一般社団法人岐阜県経営者協会，岐阜県学生就職連絡協議会，そしてネットワーク大学コンソーシアム岐阜様に心からお礼申し上げます。